しく眩ゆいやうに照す、河原には糸遊がたつ、薄くつけたのでは色が出合はぬ、濃くすれば暗くなつて感じが違ふ、晴れた日の日中の寫生は困難なものである、自己を本位として、感興によつて繪を作るといふことは戸外寫生によつて目的は達し得られやうが、其時其場の感じを充分繪に顯はそうといふには、却て畫室内でなくては出來ないやうに思はれる。

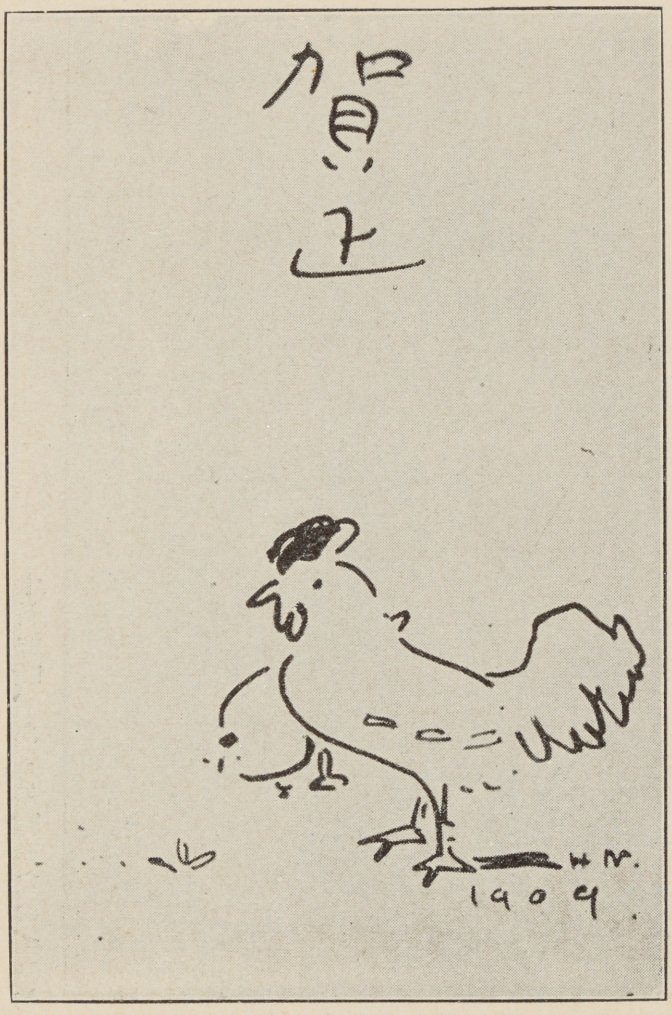
傾く日を背にして宿へ歸る。首をめぐらせば、足柄連山富士も箱根もスカイラインばかり淡く見えた。(二月十日夜)

水彩畫の筆(その一)

狐毛筆の赤毛が一番よいとなつてゐるが、黑毛でも可なり使用に耐へる、駝鳥の尻毛で出來た黑毛筆は少し柔らかではあるが水をよく含む。

筆には、錫の軸と羽根軸とある、通常同じ大きさで同じ毛質のものなら錫軸の方が高價であるが、これは體裁だけの話で使用上別段差異を認めない。

和製としてASAOといふ印のある筆は中々良好である。



中川八郎氏

鹿?の夏毛で出來た腹毛筆といふのがある、和製としては中々使はれる、水の含み方は不充分ではあるが、硬軟の工合もよく可なり長く使用に耐くて、そして價も廉である、が近頃の出來のものは毛が柔らかで困る。

筆の大きさは番號で區別されてゐる、一號から二號と段々大きさを增してゆく、通常多く使用されるのは五號以上で、ワツトマン九ツ切位ひの畫を描くには八號位がよい、大きいのは十二號位迄ある、初めのワツシにはこの位ひの大きさのがよい。

ヱハガキでも描く時は別として、通常スケツチには太い筆の方がよい、そしてあまり數は澤山入らぬ、八號位ひの一本でも間に合ふ、五號、八號、十二號と三本もあつたら澤山である。

* * * * *